

農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

1. ため池防災・減災技術研修の実施

ため池防災・減災技術研修については、昨年度と同様 Web 形式（eラーニング）で実施しました。

本研修では、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GIS ソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習を行い、その結果について講師が助言等を行いました。研修期間は5月20日（月）～24日（金）の5日間とし、研修生の参加人数は39人（県22人、土地連17人）でした。研修実施後の研修生からの意見として、「今回の研修が非常に参考になった。」「研修で学んだことを今後の業務に活かしていきたい。」などがありました。

2. 農村工学技術研修（農村防災・減災技術指導者）の実施

5月27日（月）～31日（金）の期間、参加人数14名（県：10名、土地連4名）で実施しました。

研修内容は、農村防災・減災技術に係る講義、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフトを使って氾濫解析を行い、浸水想定区域図を作成する演習を行い、その結果をグループ毎にとりまとめ、発表・意見交換を行いました。

なお、研修内容を即時に活かせるよう研修期間を梅雨等の出水期前の5月に実施することとしました。

3. 農村工学技術研修（ダム機能保全Ⅰ）の実施

6月3日（月）～7日（金）の期間、参加人数17名（国：8名、県：4名、水資源機構1名、土地連4名）で実施しました。研修内容は、ダムに関わる調査・設計・施工等の建設技術に関する講義を行いました。

本研修は、3週間後に開催されるダム機能保全Ⅱ研修にも参加する研修生の負担に配慮して今年度からオンライン研修としました。

4. 農村工学技術研修（土木地質）の実施

6月3日（月）～7日（金）の期間、参加人数20名（県：17名、土地連3名）で実施しました。

本研修は、参加希望者の減少により隔年開催としておりましたが、昨年5年ぶりに開催（コロナ対応により3度中止）したところ、定員を超過する希望者があり今年度も開催することとなりました。

研修内容は、地質調査の基本、土木地質計測、軟弱地盤対策、地すべり対策などの座学とボーリング調査、地下水調査、物理探査などの現地実習及び産業技術総合研究所地質標本館への現地見学を行いました。



土木地質研修 実習状況